令和３年度

事　業　計　画

新潟カリタス会

新型コロナウイルス感染が世界中に広がる中で、ワクチン接種がこれからの方向に大きく左右することでしょう。コロナ禍で世界が一つに繋がっていると感じます。教皇フランシスコの『全てが繋がっている』と述べられた言葉を、実感を持って受け止めています。この生活に慣れるとまた違った禍が生まれ、一人暮らしの高齢者、自分の意思を十分に伝えられない幼い子ども等が人との絆への渇きから益々孤独感を深めています。福祉サービスを必要としている方々に可能な限り手を差し伸べていきたいです。

１.社会福祉充実計画

地域福祉の推進と事業の展開から地域に役立つ法人を目指し、公益性と事業性の双方に視点を置いて、地域における法人として担うべき事業の最終年度を迎えた。令和元年度には新潟天使園に地域支援センターを開設し、令和 2 年度には見附に地域支援センターの建物が完成した。

これから社会資源として建物の利用活用、地域社会と交流、福祉サービスの提供等を考えている。手探りの状態であるが、社会の情勢も見極めていかなければならない。新潟天使園地域支援センターは建物を維持管理する為の財源も考慮して、各種研修の場として地域住民も利用している。福祉の未来を明るくするのは「人の力」です。人材育成も含め支援センター運営の適任者を選考していきたい。

２.自立支援の充実

利用者（入所者）の権利を擁護し、平安な生活を送り、人としての人格形成の環境整備と、人としての生き方を職員と共に享受したい。職員の資質向上も併せて行う。

３.財政基盤の確立と透明性の確保

入所児の福祉サービスの向上と安定した経営に財源の確保は欠かせない。建物の維持管理、必要経費等、支援センターへの補助は当面続くと考えられる。

入所数、定員数により経営状況が大きく変わっていく。社会の動きが目まぐるしく変わり、国や県の政策も同様に変化していく。各施設の状況を正確に把握し、また全職員にも分かりやすく周知していきたい。